令和4年度 第1回史跡小牧山整備計画専門委員会議事録

1 会議の名称

令和4年度第1回史跡小牧山整備計画専門委員会

2 開催日時

令和4年6月1日(水) 午後2時～午後3時30分

3 開催場所

小牧市役所 本庁舎3階 301会議室

4 議題及び報告

【議題】

主郭地区第1工区の施工方法について

【報告】

(1)今年度の事業計画について

- ・主郭地区第3工区整備実施設計
- ・主郭地区第1工区整備工事
- ・小牧山城史跡情報館周辺(管理道部分)整備工事
- ・主郭地区第3・4工区発掘調査
- ・小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装について

(2)史跡小牧山整備基本計画の改訂について

5 公開又は非公開の別

公開

6出席者

[委員]麓委員長、赤羽委員、中井委員、播磨委員

[助言者]文化庁文化資源活用課 中井文化財調査官、小野調査官

愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室 山内技師

[事務局]中川教育長、石川教育部長、伊藤教育部次長、武市小牧山課長、

浅野史跡係長、坪井主査、土屋主任

[業者]株式会社 地球号 面高氏

[傍聴者]なし

7会議の結果

【事務局(武市)】

それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回史跡小牧山整備計画専門委員会を開催させていただきます。

会議を始めます前に、ご欠席者のご報告をさせていただきます。

本日は、仲委員よりご欠席の連絡をいただいております。

本委員会は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして会議を公開とさせていただきます。

本委員会の議事は音声録音し、議事録は、発言内容、お名前とも市ホームページにて公開させていただきますので、ご承知おきをお願いいたします。

続いて、会議資料の確認をさせていただきます。

あらかじめお送りさせていただいた資料は、次第、資料の2と3でございます。また、机の上には、本日資料1を置かせていただいております。追加をお願いいたします。

不足などございましたら、お申し出いただきたいと思います。よろしかったでしょうか。

【赤羽委員】

資料の中に、最後に「小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装について」という議題がございます。資料を頂いているんですが、同じものが2つあるんですけども、そうなっていますか。

【事務局(武市)】

1部でお願いいたします。申し訳ございません。

また、今年度異動のありました事務局職員の紹介をさせていただきます。部長の石川です。

【事務局(石川)】

教育部長の石川です。よろしく申し上げます。

【事務局(武市)】

次長の伊藤です。

【事務局(伊藤)】

教育部次長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局(武市)】

それでは、初めに教育長の中川よりご挨拶を申し上げます。

【事務局(中川)】

改めまして、皆様こんにちは。

本日は、お忙しい中、史跡小牧山整備計画専門委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、委員の皆様方におかれましては、平素より本市の小牧山整備事業にご理解、ご支援を賜り、重ねてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、本日の専門委員会では、議題が1件、報告が2件ございます。

議題は、主郭地区第1工区の施工方法についてでございます。今年度実施いたします史跡小牧山主郭地区第1工区整備工事におきましては、現状、工事車両の進入が困難でありますため、工事用の仮設通路を設置したいと考えております。設置内容につきましてご意見を頂戴したいと思っております。

また、報告といたしまして、今年度の事業計画についてと、昨年度ご審議いただきました史跡小牧山整備基本計画の改訂について上げさせていただいております。

なお、本会議終了後には、昨年度保存・修理工事を行いました小牧市創垂館と、同じく昨年度整備工事を行いました主郭地区の第5工区の整備後の状況をご視察いただく予定となっております。

委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

それでは、この後、審議のほうよろしくお願いいたします。

【事務局(武市)】

なお、本日は、基本構想修正委託、整備実施設計の受注者でありました株式会社地球号の面高氏にも出席していただいております。以下の議事進行は、麓委員長、よろしくお願いいたします。

1 議 題

(1) 主郭地区第1工区の施工方法について

【麓委員長】

それでは、議事次第に従って進めていきたいと思いますが、いつものように、まず事務局から説明していただいて、委員から質疑、ご意見等をいただきたいと思います。

それでは、議題(1)主郭地区第1工区の施工方法について説明をお願いいたします。

座って結構です。

【事務局(土屋)】 小牧山課史跡系の土屋といいます。よろしくをお願いいたします。

それでは、議題(1)について説明させていただきます。資料1をご覧ください。

本年度、歴史館西側の主郭地区第1工区整備工事を実施するに当たり、施工方法を検討したところ、現状、当該エリアに工事車両を直接乗り入れることが困難であることが判明しました。そのために仮設通路を新設する目的であります。

こちらですけれども、位置としましては、令和2年度に整備しました作業道部分より歴史館南側の主郭地区第2工区を経由の上、第1工区に進入する計画です。

現況地盤としましては、若干平場部分がある場所がございます。また、遺構面までの深さが浅いことから、土のうや木杭などを用いて盛土することにより、車両通路幅約3mを確保しようとするものでございます。

以上でございます。

【麓委員長】

資料1の配置図のところ左下の、斜めに上がっていくところですね。ちょっと上がっているのかな、斜めに。敷鉄板とか仮設道土のう積とかって書いてあるところ。その部分の話。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

その部分の断面図が次のページですね。

【事務局(土屋)】

はい、そうです。

【麓委員長】

断面線というのが、+13.014と書いてある、左の一番上の+13.041と書いてあるのが、1ページ目の配置図の断面線の下から4番目に相当するという話ですよ。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

こうすることで土のうを積んで、そして盛土、切土をして、仮設道の3mの幅員を確保したいということですね。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

現状でこのところは見学者の通路になっていますよね。

【事務局(土屋)】

一部通路になっているところがあります。

【麓委員長】

その一部は、これでいうとどこからどこなんですか。

【事務局(土屋)】

現状、小牧山を散策していただくと当たり、一部道路となる場所につきましては、おおむね平面図の18.050。

【麓委員長】

18.050。

【事務局(土屋)】

というところから、そこから図面上方に向かいまして、42.872。

【麓委員長】

42. 872。

【事務局(土屋)】

こちらの区間が現状の園路になっています。

【麓委員長】

ここ、例えば18. 050と書いてあるところを例にとると、現況線というのが斜めになっていますよね。じゃあ、ここから通路が始まるけれども、勾配がこれほどあるということですか。

【事務局(土屋)】

18. 050の測線につきましては、本当に通路と工事用通路が接するような場所でございます。工事用通路の部分が、現状、斜面を形成しておるところですから、このような図面になります。

【麓委員長】

そうすると、まだここは現状の通路ではないと思ったほうがいいんですね。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】 今度、その上の23. 059というところ、これの赤い線で示している右側の水平な部分、これが現況の通路であると。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

でも、この幅では3m確保できないということですね。

【事務局(土屋)】

はい、そうです。

【麓委員長】

確保できないので、通路として利用できる部分はそのままにして、その前方というか、下に落ちる斜面側、この図でいうと左側に盛土をして3mを確保すると。そういうことね。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

ほとんど今の通路をそのまま使うわけにはいかないということですね。

【事務局(土屋)】

そうです。

【麓委員長】

一部は使えるところもあるけれども、幅員が足りないなので、この斜面の低いほうに土のうを積んで盛土をして敷鉄板をして、その上を通路にしたいと。そういうことですね。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

この図面を確認させていただきましたが、この案について、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

【中井委員】

いいですか。

【麓委員長】

はい。

【中井委員】

その断面で教えてほしいのは、遺構図からということで、遺構線というのが破線が入っていて、現況線というのが実線が入っている。この遺構線というのが、今までの発掘調査の検出面

と考えていいということですか。この遺構線というか遺構図というのと、遺構図からという名称と、下の凡例で遺構線と書いてあるんですが、この意味をちょっと教えていただきたい。

【面高氏】

遺構図からというのは、調査したときの断面がありまして、その近所の線は遺構図としております。検出面は遺構線と表現してございます。

【中井委員】

今はそれはよしでも、埋め戻してあるのが現況ということですか。

【面高氏】

はい、そうです。

【中井委員】

ということは、基本的には、ここの切土というのは、遺構を埋め戻した後の現況の土を切土するということですか。

【面高氏】

そういうことになります。

【中井委員】

もう1点は、お話があった+18.050からがほぼ今通路になっているところというのは、もう通路は通さないというか。要するに工事車両だけが通ることになってしまうということだね。

【事務局(土屋)】

はい。工事をするに当たりまして、今回重複する場所につきましては通行止めさせていただく計画でございます。

【中井委員】

わかりました。

【麓委員長】

あと、遺構線、破線のない断面図がありますよね。破線のない断面図で、そこも切土する範囲がありますよね。

ここのいわゆる確認できていない部分の遺構線というか、切土するに当たって遺構面を傷つけないかどうかということはどうやって確認するんですか。

【面高氏】

遺構図とか線が入っていない部分につきましては、現況の地山のすりつけとすり終わり、最初と終点ですので、そこは現況の高さをそのまま使います。

【麓委員長】

いや。例えば13. 041というのは、現況線は書いてありますけれども、遺構線は書いてないですね。左の一番上です。

【面高氏】

これ、遺構線は、一番下の線の波型になっています茶色い線です。

【麓委員長】

これは色が見えないんですけども。見えにくいだけで、うっすらと緑っぽい色があるのがそうですね。

【面高氏】

そうです。多分カラーコピーの機械の種類によって見えづらくなっています。

【麓委員長】

ああ、そうですか。そうすると、遺構線というのは2つある。赤で描いてあるのと薄くて見えない線と。

【面高氏】

そうです。一応図面では茶色いです。

【麓委員長】

こちらの資料では茶色に見えなくて。

【面高氏】

黄色くなっています。

【麓委員長】

今言われて初めて、何となく黄緑色の薄い線があるなというのがわかったんですけど、ここがそうですか。だから、全て遺構線というのが書いてある。

【面高氏】

はい。

【麓委員長】

その遺構線の色分け。2種類の色分けは、これ、何で分けてあるんですか。

【面高氏】

見にくくなっている線がほぼ岩盤のラインです。

【麓委員長】

岩盤。

【面高氏】

はい。赤い部分が、土がのるところです。

【麓委員長】

そうですか。でも、その色分けよりも、遺構面の上の盛土部分を切るか切らないかということがわかったほうがいいので。むしろ、はっきりと遺構線というのがわかっただけのほうがよかったかなと思いますけどね。

わかりました。うっすらとこういうものが見えてて、切土はそれよりは全て上だということですね。わかりました。

遺構面より上の部分を切土、盛土して、鉄板敷きの作業路を造るということですが、よろしいでしょうか。

【赤羽委員】

やっぱりこの図面だけでは全く意味がわからない。説明を受けて初めて、こういうものかと思ったわけです。

じゃなくて、やっぱりこういう会議の中の議事をちゃんと残すためには文章も残さないと。何のためにこういう工事をやるのかということが。

例えば、重機というのかあるいはトラックみたいなやつを通すために幅員が足りないのも、しかも、遺構面に影響を与えないようにこういう工法にしましたということを文字の上で残さない。ただ図面だけを了承しましたということでは、全く意味がない会議になってしまうので、そこら辺。

前もそういうことがあったんですよね。図面だけ提示されて、口頭で説明があったということが何回かあるので、気をつけていただきたいと思います。

それと、この施工区の特に右下のほう、ここまでは、この施工されるところまでは重機が入るだけの幅員があって、しかも、それが史跡の現状に変更を与えないということであることは確かなんです。

【事務局(土屋)】

はい、そうです。

【赤羽委員】

逆に言ったら、それも図面として残すべきじゃないかなと思うんですけどね。どういう経路を取ってこの仮設工に至る。どれぐらいの重機が通るか知りませんが、結構な重量のあるものが通るわけですから、やっぱり前後の部分も示していただきたい。

もう1個は工期です。期間がいつからいつ頃までを想定しておられるのか。あるいは、工期が終わって完成したら、例えばこの仮設工は撤去するのか、あるいはほかの、それ以降の工事に利用するというのか、そのまま用いるのかどうか。そこら辺の見通しはどうなんでしょう。

【事務局(土屋)】

現段階といたしましては、来年度実施予定の第2工区が今回の仮設道路がある部分になりますので、そのためにまた工事車両の進入があるものですから、第1工区施工後も、一定期間存置したいと考えております。

つきまして、今現状、園路と重複しているところがございますので、こちらに関しましては、園路としての機能が確保できるように、安全対策をした上での開放を考えております。

【麓委員長】

赤羽委員の言われたことに関連するんですけども、こういう工事をしようとするれば、現状変更の申請をするわけですよね。それはこれからですか。

【事務局(土屋)】

はい、これからです。

【麓委員長】

これからですよ。そのときに、この図だけ出して終わりではないですよ。

そこにもちゃんと説明があるわけですよ。だからそれを多分、委員会でこれが承認もらったら、現状変更の申請書をつくると思うんですけども、そこには説明があつて、委員会にはこの図だけで口頭の説明という、そういう進め方が根本的に問題があるんだと思う。

現状変更申請のために必要なことは、あらかじめ説明とか文章とかいうものも添えて、こういうことで現状変更の申請をしますというふうにして委員会で諮るほうがより理解がしやすいし、この委員会で既に承認したことについて文化庁に現状変更を出すということになると思いますから、それをちゃんと、そういう資料づくりをしてほしいなと思いますね。

ほかにはいかがでしょうか。

【中井委員】

この仮設の工事、仮設道の工事で、当然、上にこれから次の工区も継続されるという今のお話だと、例えば重機の、要するに動くわけですから、動いている間に地下遺構が、要するに切土、盛土で大丈夫だということだけれども、それは盛土で大丈夫なだけで、重機の重さとか。要するに、その回数なんかで下の遺構が例えば傷つくということは絶対にあり得ないですね。

【面高氏】

重量が明確なものにつきまして、盛土の部分が多いということもありまして、それは大丈夫だと考えております。

【麓委員長】

それと、現在の観光客が歩く園路は舗装されていたんですけど。今の現状です。

【事務局(土屋)】

現在、仮設通路と園路と重複するところにつきましては、黒いアスファルト舗装が施工されています。

【麓委員長】

アスファルト舗装ですね。それは残すんですか、撤去するんですか。

残した上で幅員を広げるようなことにするのか、撤去するのか。撤去した上で今回の仮設道を造るのか。それはどちらですか。

【事務局(土屋)】

今現在のところ、黒いアスファルトのところに併せて敷鉄板を敷こうと考えております。

【麓委員長】

併せてというのがよくわからない。

【事務局(土屋)】

上に敷鉄板を載せるような形で計画しております。

【麓委員長】

その上ですね。その上だから、もうちょっと、先ほど中井委員が心配されたことはある程度大丈夫だろうということは。

この後、現地へ行くんですよね。現地へ行ってもう一度、実際どこを切ってどこを盛土するということを説明していただけますかね。

よろしいですか。

【中井調査官】

工法じゃなくて、このやる事業そのものは補助事業の中でやるんですけど。どうされますか。

【事務局(土屋)】

今は補助事業の中でやる計画です。

【中井調査官】

ということは、計画変更もするということですか。これはそもそも載っているんですけど。

【事務局(土屋)】

載っているものです。

【中井調査官】

載っているんですね。

今回はその工法だけの確認ということですね。わかりました。

【小野調査官】

迂回路の設置はどのように考えていらっしゃいますか。これでいくと、歩行者の方が今まで通っていらしゃった道が一定期間通れなくなると思うんですけども、その方たちはどこで止めて、どう回される予定ですか。

【事務局(土屋)】

今現在のところ、小牧山南側の大手道の入り口のところから登ってきまして、まず右手に曲がって主郭のほうに向かっていく交差点があるんですけども、あの位置で歩行者の方を入れないような形で、迂回させるような計画であります。

その後何個か交差点があるんですけども、それにつきましては、事前に「ここから先は入れません」ということで調整させていただきまして、利用者の方には大きく遠回りという形にはなっていますが、迂回路を設置する計画でございます。

【小野調査官】

ありがとうございます。

【麓委員長】

せっかく昨年度までに整備が終わった部分が、この工事着手と同時にまた見られなくなる、そこに近づくことができなくなるんですね。そういうことですね。

【事務局(土屋)】

はい。

【麓委員長】

これは整備をどういう順番でやっていくかということと関連してくるんですけども、せっかく整備したところが、次のところの工事が始まるとまた見るができなくなるというのは、あまりいい計画ではなかったですね。

工程を考えるとやむを得ないことであればしょうがないですけれども、市民としては、せっかくきれいになった、整備できたところが、また別のところを始めた見えなくなるというのは、多分非常に残念なことだと思いますよね。それは今さらしょうがないことかもしれませんけどね。

では、議題についてはよろしいでしょうか。

2 報告

(1)今年度の事業計画について

【麓委員長】

それでは、次、報告で、(1)今年度の事業計画について、5つの項目がありますが、これは全部説明していただきましょうかね。

【事務局(坪井)】

報告です。続きまして、坪井より説明いたします。

資料2になります。順番に説明いたします。資料2の1枚目、下半分になりますが、①といたしまして主郭地区第3工区整備実施設計を今年度の事業計画としております。

昨年度は、歴史館から見まして南側の第2工区の設計をいたしましたが、今年度は歴史館の東側、こちらの図面にあります約1,390㎡を対象とする部分につきまして整備の実施設計を進める計画です。この部分につきましては、主郭の搦手口の部分がありますし、また、その北側では玉石敷ですとか、庭園ではないかと考えられる遺構が見つかった部分の範囲になります。

次のページに移りまして、②としまして、主郭地区第1工区整備工事の実施です。

こちら、議題でも上げた部分になりますけれども、歴史館の西側約1,270㎡につきまして、昨年度と同様、石垣復元等の整備を実施する計画です。

その下に移りまして、③小牧山城史跡情報館周辺(管理道部分)の整備工事。

こちらの部分、小牧山のふもとから桜の馬場、中腹に至る間の整備工事になります。令和2年度に実施設計を行いまして、曲輪や堀、土塁の復元が主な内容となりまして、以前、市役所の跡地で整備をいたしたときに取りつけました木階段を延伸しまして、史跡情報館の西側、新しくしました管理道に接続する計画が入っております。面積としまして約2,500㎡です。

この部分が完了いたしますと、史跡情報館の設置からそれに伴う周辺整備をが終了することとなります。

続きまして、次のページに移りまして、④主郭地区第3・4工区発掘調査ということで、今後整備を進めていきます第3工区・第4工区的设计に当たり、状況を確認する部分につきまして、約200㎡の調査を計画しております。

図で、台形状になっておりますが赤で示した部分を調査範囲として考えておりますけれども、この部分につきましては、位置的には、主郭の搦手口からおりてきた東側、さらに、この調査区の東へ下ったところには、主郭地区の縁辺の虎口とされている部分がある位置関係にあります。以前、試掘調査でこの部分、細長いトレンチを入れたところがありますけれども、そのときの状況としましては、石垣等は確認はされていないという状況です。また、その調査区の北側でも一部、面的に小範囲の調査をし、1か所だけ、礎石に使われたのではないだろうかと思われる平坦な石があった状況です。

次に、⑤といたしまして、小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装についてですが、こちらは、別冊子でありますA4の横長、「小牧市歴史館等展示改装基本方針」で説明いたしますので、こちらをご覧ください。

表紙をおめくりいただきまして、1ページ目です。右上にページの番号が振ってあります。まず、この改装に当たります基本的な方向性として、昨年度から主郭の整備工事が始まりまして、復元した石垣などが、今後、史跡の来訪者に間近で見てもらえるような状況になっていく。

また、令和5年のNHKの大河ドラマでは徳川家康を取り上げる内容になっておりまして、家康が小牧・長久手の戦いで陣をしいた小牧山が注目され、全国から来訪者が訪れることが予想できる状況にあります。このような機を活かして小牧山を積極的にPRしていこうということで、多くの方に小牧山に訪ねていただく取組といたしまして、歴史館、れきしるこまきの施設をリニューアルしていこうというものです。

次に、展示整備の方向性ですが、真ん中より下のところに記しております。

方向性として、史跡小牧山でのガイド機能山頂と山麓の2か所で相互補完していく。来訪者のニーズに沿った展示内容の整理や展示内容のデザインの統一を図っていくという方向性で考えております。

展示の基本方針として、歴史館につきましては、子どもから大人まで理解できる戦国時代の小牧山城についての展示。信長の小牧山城や家康の小牧山城をわかりやすく展示していこう。また、頂上にあります眺望を活かした展示をしていこうということで方針を上げております。

れきしるこまきにつきましては、より詳しい小牧山城の最新情報を周知する展示という基本方針を上げておりまして、小牧山城の発掘調査や整備についての最新の情報を、企画展示をす

ることにより随時更新していく。また、小牧・長久手の戦いに関する展示を拡充していくというこ
とで進めております。

次に、2ページに移りまして、歴史館の展示内容の整理です。

展示テーマのイメージといたしまして、1階の部分、エントランスフロアになりますけれども、
多目的・交流スペースということで、現在もありますけれども休憩スペースを設け、また、小牧山
の近代について紹介していこうということでイメージしております。

2階以降につきまして、まず2階につきましては戦国フロアということで、信長・秀吉・家康の
小牧山との関わりですとか、小牧・長久手の戦いにつきましてわかりやすく解説展示していく。
地形の模型を使いましてプロジェクションマッピング等で戦いの流れを紹介していくようなこと
をイメージしております。

3階に移りまして、信長・家康フロア。ここでは、映像を使いまして信長や家康関連の小説や
映画などの紹介。また、クイズなどを考えております。

4階に移りまして、展望フロア。ここでは眺望を活かしまして、小牧山の城下町ですとか、小
牧・長久手の戦いの砦跡などの距離感を体感していただけるような展示を考えております。

3ページにつきましては、歴史館のエリア構成。

4ページにつきましては、平面計画図。

5ページでは、展示の参考のイメージを提示しております。

最後のページ、6ページに移りまして、今後の計画ではありますけれども、歴史館につきまし
ては、現在実施設計を進めておりまして、各階の展示内容の精査を行っております。そして、
秋以降に展示改装して、来年の3月には完成という計画になっております。

れきしるこまきにつきましては、今後の展示改装について主なものを挙げますと、は映像の
制作。今年度になりますけれども、常設展示室入口にあります城郭シアターに小牧・長久手の
戦いを紹介する映像を追加していこうと考えております。こちら、歴史館同様来年の3月に完
了するという計画、工程で進めております。

(1)の報告につきましては以上です。

【麓委員長】

最後の歴史館等の展示改装についてはちょっと内容が異なるので、それを除いて、上の4
項目でまずは今報告いただいたことで質問等ありましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。どうぞ。

【赤羽委員】

資料2の(1)①主郭地区第3工区整備実施設計というのが図2でありますよね。それと、次の2枚目の上の④主郭地区第3・4工区発掘調査というのが図5で示されていますけれども、この図2と図4の発掘調査をする部分というのは、第3工区の整備実施設計の範囲の中に含まれると
いうか、ダブっている部分があるんじゃないですか。

逆に言ったら、発掘調査をする前に実施設計をやっちゃうのか。発掘調査をやりながら実施設計をするのか、発掘調査と関わりなく実施設計をやるのか。図2と図5の発掘調査区域がダブっているような気がします。これはいいんですか。

【事務局(坪井)】

こちらにつきましては、昨年度も同様だったかと思えますけれども、これまでの発掘調査で状況が明らかなどころは実施設計を委託したときに最初から手をつけられるんですけども、今年度予定しております発掘調査でやる部分につきましては、発掘調査を進めて、その結果を見て、その部分を設計に反映していくと考えております。

こちらに記しました期間が、実施設計が6月中旬から3月で、発掘調査が7月から12月となっております。期間としては実施設計のほうが最初に着手する形になっておりますけれども、これは入札との関係で先に発注というような形になりますので、始まりとしては実施設計の期間が早いですけれども、発掘調査する前にその部分を設計してしまうということは考えてはおりません。

【赤羽委員】

そうですね。最終的には実施設計の後になるということですよ。

【事務局(坪井)】

はい、発掘調査の部分についてはそうなります。

【赤羽委員】

この部分というのは、搦手の部分になりますよね。発掘調査でも非常におもしろいものが出てきたところですので、それをどう実施設計に活かしていくかというのはなかなか難しいといえますか。僕らは興味で済む話ですけども、実際におやりになるのはなかなか大変じゃないかなと思いますけど。わかりました。

【麓委員長】

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に、歴史館等の展示改装についてですが、これは報告なんですね。

例えば、れきしるこまきをつくるときには、どういうガイダンス施設をつくるかということから始めて、内部の展示内容についてもかなり検討してきましたよね。そして、今度、歴史館は大々的に展示内容を変える。そして、れきしるこまきについては、開館から4年目を迎えて、大河ドラマに合わせて展示内容を一部変えるという話ですね。それはいずれも報告なんですね。

展示内容がどう変わるということについても、変えますという報告だけで、変えることを今計画しています。これ、既に実施設計をやっているのかな。一番最後の工程表を見ると、歴史館については、5月から8月までの4か月で実施設計をやって、その後、10月中旬から展示の改装を行うと。れきしるこまきについては、6月から3月中旬ぐらいまでの間に改装を行います。その報告なんですね。

【事務局(浅野)】

今回、れきしるこまきにつきましては、先ほどおっしゃっていただいたように、展示の全館リニューアルではなくて、一部コンテンツを追加するというようなものを計画しております。

歴史館につきましては、今現在は郷土資料館ということでいろんなものが展示してありますけれども、先ほども説明させていただきましたように、戦国時代の小牧山城についての展示ということで、子どもから大人まで理解できる、わかりやすい展示ということで、れきしるはより詳しい、最新の発掘調査ですとか整備についての情報を加えたりとかということで、どちらかという詳しい内容とさせていただきます、歴史館はよりわかりやすい展示ということを考えております。

主な展示内容につきましては、市民代表から成ります史跡小牧山整備計画審議会でご審議いただきまして、例えば時代考証的なものでどうしても必要になってくるものにつきましては、この会にかけさせていただくのか、また昨年度、前回のれきしるをつくらせていただいたときのように、個別にそれぞれのところでご審議、ご指導いただくのかということで進めさせていただきたいと思っております。

なので、今回は、やりますということの報告にさせていただきたいと思います。

【麓委員長】

わかりやすさというのは当然大事なことですけれども、間違った解説というのが一番困るわけですね。その辺をちゃんと検証した上でやらないといけないですけれども、この実施設計というのはどういうところがやっているんですか。

【事務局(浅野)】

入札を既に済ませておりました。入札の結果ですが、れきしるこまきをつくりましたトータルメディア開発研究所が落札されましたので、今、実施設計を進めておる状況です。

【麓委員長】

そういうところが、こんな展示にするというようなコンセプトであるとか、実際それをつくる作業というのはいいと思うんですけども、その内容の検証というのはちゃんと。そういうものを丸投げできるわけではなくて、検証することが必要ですよ。

れきしるのときには、少なくともこの委員会で随分その検証に時間をかけたと思うんです。特に、小牧・長久手の戦いで、いろいろな研究者によっても説があったりするところで、安易にコンテンツをつくってしまうといけないと思うんですが、そういうのが報告でしかないというのが、私はどうかという気がするんですけどね。

ご意見、どうぞ。

【播磨委員】

これを送ってきてもらって、見て、びっくりしました。何でこんな家康を出すんだという。その説明が、大河ドラマだということですよ。確かに大河ドラマで人を寄せる、今言われた子どもにわかるように。でも、事実じゃないことを伝えられるほうが、我々は一番びっくりするんですよ。

何がびっくりしたかという、家康の城と書いてあるんです。小牧山城がいつの間に家康の城になったんですか。三河の領主である家康が何で尾張の領土に城を持てるんですか。だから、家康の城という表現をすると、みんな、家康の城となるんですよ。

これは、前のときからもずっと言っていたように、小牧・長久手の戦いというのは基本的には信雄と秀吉の戦いなんです。そこに家康が味方をしてやった。だから、もちろんこの小牧山には家康が関わりがある。それはいいんです。

だから、例えば今回の計画が、特別展で小牧山城と家康だったらわかりますよ。これ、どうするんですか。ずっとそのまま、大河が終わってからもこの展示をやるんですか。

【麓委員長】

それはそうでしょ。改修するっていうんだから。そういう企画展をしますという話じゃないですよ。

【播磨委員】

じゃないですよ。そういうことでいうと、今言ったような誤った認識がずっと続く。

何度も言っているんですが、今回の大河ドラマを誰がやって、どういう解釈でやるか知りませんけれども、どうしてもこうやっていくと信雄という人物が消えてしまうんです。下手したら、大河なんかで信雄はあほみたいな扱いをされるんです。尾張出身の信長の息子で、何で尾張出身者の人間をそんな扱いをされなきゃいけない。それで、尾張の小牧市自体が信雄を消すようなことをして、果たしてそれでいいのかということですよ。だから、見て本当に驚いて。

その大河の時期だけでやる、それで人が来るというのは、それはわかります。でも、あたかも小牧山城は信長が造って、その後に家康が入った城みたいな間違った認識。下手したら、天正12年には家康が尾張を領していたという、そんなむちゃくちゃな解釈をされてしまう。一般人、ましてや子どもたちにそんなことを伝えてどうするんだという気がするんですよ。

もちろん、出し方の問題とか、大河だからそれに乗ってやるのは、もちろんそれは反対する気もないですけども、ずっとそれが続くというのが、私は非常に納得できないし、ましてやそういうところでこの小牧市の委員会に私が名前を連ねているというか。私は降ろしていただきたいと思います。

【麓委員長】

本当にそのとおりで、なぜそんな扱いをされないといけないのか。学術的に大事なことを無視して、こんなことをやります、報告だけで済みますというその姿勢ですよ。それは根本的に間違っていると思うんですけど。

【中井委員】

よろしいですか。

【麓委員長】

はい。

【中井委員】

小牧市歴史館と書いてあって、そこが要するに外観と展示内容の乖離とかって書いてあるんですけども、じゃあ、小牧市はほかに、極端なことをいうと、旧石器から江戸時代までを展示できるような施設はお持ちなんですか。だからこそあれは歴史館として必要なので。別に家康だけが小牧の歴史でも何でもない。やっぱり小牧の歴史を伝えるから小牧市歴史館であって、外観と乖離しているとか、そんなことは関係ないんじゃないのかな。

僕は長浜城の歴史博物館の館長をやっていたけれども、長浜城の歴史博物館というのはお城の格好をしている。あれもインチキなお城の格好をしているけれども、中はちゃんと縄文時代から展示していて、市民のために、市民が市の歴史をどう学ぶかということが大事なので。大河で家康やるからってね、小牧の歴史は家康の歴史と信長の歴史しかないのか。それって、僕はすごく間違った考えだろうと思います。

大河だからといって、大河なんてドラマで、歴史でも何でもないわけですよ。小牧の歴史を子どもたちに知ってもらおうというのがすごく大事なことなので、僕は通史的なものというのは絶対に必要だろうなと思います。

【赤羽委員】

中井委員が言った、れきしるのときでも、私そういうふうに言いまして。ただ、あれはれきしるの目的だからということ。やはり小牧宿であるとか、やはりそういうものは大事に展示とか考えて。それはたしかこの会議でもそういうことも考えるという流れだったと思うんです。

この歴史館がそれを担うのか担わないのかは別にして、やっぱりその辺の展望も持っておいていただきたいと思います。

【事務局(武市)】

ありがとうございます。

今ご意見を頂きました小牧の歴史を紹介する展示施設につきましては、小牧の歴史は信長・家康の時代だけではないということで。歴史館は大河ドラマの放映に合わせて改装のほうは検討しているんですけれども、小牧の通史的な歴史を紹介する施設というのはまた別に、来年度以降検討していくということで予定しているところであります。またそちらについても、今後検討していくことになります。

あと、家康の城という表現とかいったところ、確かに小牧山については信長の造った小牧山城で、その後、小牧・長久手の戦いのときに改修されているといったところを小牧山城に来訪された方に理解していただきたい。そういうことを知っていただくというような目的で今回展示の改装をするということでございますので、史実的な考証とかいったことは、先ほど係長から話をさせていただきましたように、考証については、今後個別ですとかこの会議の場でお願いしたいと思っております。

【麓委員長】

委員の意見を総括すると、この史跡小牧山の中にあるガイダンス施設としての歴史館とか情報館というのを市の判断だけで進めていって、委員会に報告だけで済ますということは認められない。委員としては、総意としては、

だから、今回、報告事項としていますが、それについてこの委員会で承認するかということは一切なくて、むしろ報告で済ませることに大きな問題があるというふうにお考えいただけますか。

だから、この内容についても全く認められない。報告だから、認める認めないという話じゃないかもしれませんが、そんな報告を受けるわけにはいかないということです。

【赤羽委員】

よろしいですか。

【麓委員長】

はい。

【赤羽委員】

一番最後のスケジュールを見ると今年度の事業ですので、もう既に予算は昨年度の段階で決まって、しかも、どんなことをやるかという予算要求をする上で、恐らくこんなような中身のことが事務局から財政のほうに提案されたんじゃないかなと思うんですけども、本来は、やっぱり今先生方がおっしゃったように、非常に重要な事柄ですので、小牧山そのものに関わる施設のあり方については非常に重要な問題ですから、そういうことを策定する、予算をつくる、計画をつくる段階でこの専門委員会に話があってしかるべきだと思います。

その点では、そういうものなくして、結果として報告だけだということであれば、私どもはこの案そのものについては承諾しがたい。そのように思いますけれども、いかがでしょうか。

【事務局(石川)】

ありがとうございます。それだけ真剣に向き合っているというあかしでもあります。なので、一度この件については持ち帰らせていただきまして、ご相談させていただくということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

【赤羽委員】

もう1点だけ。進め方で聞いていたところで、審議会なるものどうこう、そこは私はよく知りませんけれども、特に小牧・長久手の戦いとかいうのは割と古くからの理解で進められるのが多いんです。

現在、この小牧・長久手を含めて、信長の本能寺の変以降から秀吉の関白までの間は研究がものすごく進んでいるんです。この戦いの理解にしても、従来の理解とはかなり異なっている。先ほど言ったように、江戸時代以来の家康を英雄視するための小牧・長久手の戦いというのは、天下人の秀吉を家康が討ったという流れが続いているのが、ここ十数年ぐらい理解も全然変わっていますし、それまでの過程なんかも大分新たな研究も出てきています。

審議会の人たちがそういうことをちゃんと理解しているいろいろ踏まえていただいたらいいと思うんですけれども。先ほどもおっしゃっていただいた見解の相違ももちろんありますけれども、やはりそういうところの中身の検討も慎重にやっていただきたいと思います。

以上です。

【中井委員】

私からも。例えばこれ、2ページに、子どもから大人まで理解できる、5ページに、いざ！戦国時代で、子どもが見ている、甲冑と鉄砲だけがある。導入でいざ！戦国時代とあるんだけど、戦国時代は戦争の時代ですよね。要するに、家康とか信長だけを賛美するような、子どもが甲冑とか鉄砲だけを見るような世界で本当にいいのかって、僕は最近特に思うんです。

武器を展示しているわけです。そのあたりは教育委員会の管轄で考えてもらわないと。戦国時代って戦争の時代だということ、単に英雄の時代でも何でもなし。大河なんていうのはその辺を全然考えていないと常々僕は思っているんです。やっぱり教育委員会でやられる施設にそれだけで本当にいいのかというのがすごく気になります。

僕は城の研究をしていて、ここで信長の小牧山城と家康の小牧山城と書いてあるんだけど、やっぱり家康の小牧山城なんていうものはないので。ここでそれを城にしてしまうと誤りになってしまうんだとかいうところもあって、もっと真摯に考えないと、単に迎合しているだけの観光サイドと全く変わらないと思います。

【中井調査官】

私からも。今のれきしるこまきを指定地内に建設するときの考え方として、小牧山のガイドンスは全て下でやらせてほしいということだったんです。だから、指定地内に許可を出したんです。上にあんまりやっちゃうと、この先、下は撤去してくれと我々言わなきゃいけないっちゃうんです。上は、通史とは言っていなかったんですけれども、小牧山的なものじゃなくて、先ほ

ど中井委員さんがおっしゃったように通史的なものをやるから、そこでは小牧山全体が表現できないので、新たに下に設けさせてくれというのが現状変更の許可の理由になっているんです。

今これ、上をやったら、下は要らないんじゃないのと我々は言わざるを得なくなっちゃう。これだけやられちゃうとね。だって、できないって言ったじゃんというのが前提にありまして、私苦しくなる。現状変更許可をするときに説明して、上は建物も古いし、あそこだけでは小牧山ができないから、下のところでガイドンスで。だから、下はガイドンスの補助金も入って、あそこで一括してある程度やりますという前提があるので。下はまだ自由にやってもらってもいいですけれども、上はあまり小牧山にしてしまうと、ちょっと最初の趣旨から外れてしまって。2つ要るのということになるので、上のほうはちょっと検討してほしいなと思ったりはします。

【麓委員長】

ありがとうございます。この件についてはここまでしておきましょう。

(2) 史跡小牧山整備基本計画の改訂について

【麓委員長】

次、(2)の史跡小牧山整備基本計画の改訂について、説明をお願いいたします。

【事務局(坪井)】

こちらの改訂につきまして、昨年度こちらの委員会でご審議いただきました。

今年の3月に文化庁の中井調査官にご指導いただきまして、その内容ですけれども、一番大きく変わったところにつきましては、審議の途中では、平成11年に策定しました史跡小牧山整備計画基本構想の改訂版、修正版ということで進めておりましたけれども、中井調査官から、この内容的に見ても、また、現在小牧山全体の基本計画がない状況でありますので、基本構想の改訂版ではなくて、基本計画ということにしてはどうかということでご指導いただきましたので、史跡小牧山整備基本計画ということで策定いたしました。

その中に記述がありました、平成11年に策定しました基本構想を旧基本構想という表現をしておりましたけれども、このような状況になりましたので、旧基本構想の旧という表現は削除いたしました。

また、以前、今後の整備計画ということで、後ろのほうに現在進めている主郭地区の整備計画について記述しておったんですけれども、当面のところは省いたほうがいいということでご指導いただきましたので、その部分を取り除きました。

ただ、その部分も整備計画という表現になってしましまして、あらかじめ第4章に土地利用と整備計画という表現があつて、小牧山の各エリア、ゾーンごとにどのようにしていくかという表記がありましたものですから、その部分にも一部主郭についての記述がありまして、重複する部分もありましたので、重複部分を削除して、その部分を4章に、本日お配りしているものを見ますと、8ページになりますけれども、主郭地区のAゾーンからDゾーンのついでの記述を、以前は後ろであつたものを、こちらに併せて場所を移動させました。書いてある内容については変更はしておりません。

そのような状況です。

【麓委員長】

これは、昨年度この委員会で検討してきて、それぞれ委員会で指摘されたことを直して、そしてさらに最終的に文化庁の中井調査官に指導いただいて、最終版をこれでまとめた。令和4年3月の日付けですかね。それはこのようにまとめましたという報告でいいということですよ。

何か、お気づきの点ございますでしょうか。

【赤羽委員】

いつも気になるのが、1ページの第2章整備の理念というところの2-1、小牧山の価値と書いてありますが、幾つか本質的価値ということで挙げられていますよね。やっぱり私どもが一番気になるのは、この本質的価値がこうやって列挙されているのは何に基づいているのかということなんです。僕は、これはやっぱり史跡指定書に出ている、これが小牧山の歴史史跡として値打ちを持っているんですよということが列挙されているのが史跡指定書だと思うんですよ。

それと、ここに幾つか挙げられている本質的価値というのが、その史跡指定書に合致しているかどうかということがいつも気になる。合致しているだろうからこのように挙げられているんだろうなと思うんですけども、そういう本質的価値というのを、あまり根拠のないものではなくて、しっかりした指定書という根拠があつて、そこで初めて列挙されていることですので、その点、やっぱりまた指定書を見返しながら考えてください。

【麓委員長】

ほかにはよろしいでしょうか。

【中井調査官】

このときにも気づけばよかったんですけれども、19ページを見ていただくと、確かに上は戦国時代をテーマにやり直すと書いてあって。確かに計画どおりと言われちゃうと。ここで気づくべきだったんですけれども。

戦国のテーマをやってもいいですけれども、そこに特化ということはちょっと。申し訳ないけれども、現状変更のときの、下のほうの2番目の最後のところ、この頃はまだ小牧山情報館と書いてありますけれども、これも先ほど、資料のほうがれきしる……。

【麓委員長】

れきしるは愛称です。

【中井調査官】

わからなかったのがごっちゃになって。下はそれでいいですけれども、上が意外に。体験学習施設というのはいいですけれども、戦国時代に特化した整備にしていくというのが書いてあったんだと、確認しなかったのがまずかったんですが。

【麓委員長】

そういうミスはあるとは思うんですけれども、れきしるをつくるときの経緯は、先ほどおっしゃったとおりなので、そこまで確認ができなかった。今、これはまずいとわかったわけですから、これは3月に出たものになっていますけれども、日付けをさかのぼって修正版にしてくださいとはできますか。

【中井調査官】

どこかのタイミングでもいいですけれども、一部訂正で、通史を通じて戦国時代テーマのところを何とかという。

通史があった上で、ここだけを特化しますよというなら、通史の情報館としてはいいと思うんですけれども、この前後がなくなっちゃうと、やっぱり小牧市の歴史、先ほど先生もおっしゃったように、何もなくなるとそこだけ上がるとちょっと都合が悪いので。

ちゃんと縄文とかから来て、こういった時代も経て、こうなっていくというような形にしてもらって、その中で戦国をちょっと特化するというのは、まあまあ場所柄いかなと思うんですけれども、前後の通史は外されちゃうとちょっと困るかなと思うので。戦国時代のところの内容に特化する前に何か、小牧市の通史を紹介しつつ、戦国をちょっと特化しますみたいなことに直していただけるといいなと思うんですけれども。

これだと、下の情報館は要らないんじゃないのって史跡部門から指摘を受けたときに、僕はぐうの音も出なくなってしまうので。次替えたときに撤去してねと。だって、もう役割は終わったんでしょ、上でやるんでしょ。それとも、上の模擬天守を撤去するんですかと、2択を迫られたときにちょっと困るんです。共存するというのは、そういうことで了解を得たところはありませんので。

【麓委員長】

市としてはいかがですか。

【事務局(石川)】

今ここでのどうしますということは控えさせていただき、少し相談させていただきます。どちらにしても、先生方のご意見は真摯に受け止めさせていただいて対応させていただくということで、よろしくお願いします。

【麓委員長】

はい。

【中井調査官】

完全に今の実施設計が終わる前までには、つじつまが合うとか、整理していただくと助かります。

【赤羽委員】

ちょうど今中井先生がご指摘されたところの城郭展示ゾーンのすぐ下に、徳川義親公の銅像を歴史館の中に移すと書いてありますよね。ところが、さっきの計画案ですか、基本方針を見ると、義親公のことが全然出ていないですよ。移すとも何とか出ていない。

僕はむしろ、いろいろ論議はあるでしょうけれども、義親さんの銅像を中に入れるんだったら、むしろそれはそれで、近世以降の小牧山の変遷というものを歴史館の中で説明する。てっぺんに上って行って、歴史の覇者たちが見た風景がこうだったというんじゃないくて、遠くに名古屋駅のビル群が見える、むしろそれを見てもらうほうが現代的に意味があるんじゃないかなと思ったりしたんですよ。

それはちょっと余分なことですが、こういうふうの基本計画の中に義親さんの像を中に入れるとなっているんだったら、さっきの計画でも、やっぱりそういうふうにするべきじゃないですか。ちゃんと整合性を取れるようにしていただきたいなと思います。

【事務局(武市)】

ありがとうございます。

義親公の銅像については、先ほど見ていただきました資料の2ページ、1階のエントランスフロアと位置づけておまして、こちらで小牧山の近代ということで、徳川家から小牧に寄付され、小牧山が小牧市の所有になった経緯ですとか、歴史館を建てられた平松氏の銅像なんかも今館内にございますので、そういった歴史について紹介するコーナーを設けていこうということでございます。

先ほどの、戦国時代のテーマに展示内容を特化ということが書いてございますけれども、展示についてはそういったものを主体として行っていく部分が主ですけれども、1階では交流ですとか地域の観光の紹介、小牧山の近代についてもご紹介していく予定をしております。

また、小牧山城史跡情報館との区分といったところも、眺望のよさというのが歴史館の特徴でありますので、そういったところを生かしながら展示をしていく、体験学習ができるような施設にしていけるような計画でもって進めたいと考えているところであります。

以上です。

【麓委員長】

今のはよくわからなかったんですけども。

1階エントランスのところに小牧山の近代に関する内容があるので、義親銅像は移設するというをおっしゃったんですか。

【事務局(武市課長)】

そうです。こちらに移設して、近代のことも紹介していくこととしています。

【麓委員長】

移設するんですね。

【事務局(武市)】

そうです。

【麓委員長】

この銅像は今回。

それについては問題ないですね。

【播磨委員】

訂正とかではなくて、これは根拠にされると困るかなと思う。

先ほど言った、家康の城ということで、3ページに家康により改修されという表現があるんですね。これは前も気にはなったんですが、全く家康が改修をしていないということも言えないのでそのままにしたんですけれども、今後検討されるときに、こういうふうな家康が改修したじゃないかという、それを根拠にされるのは困るかなというように思います。

あくまでも信雄の城で、そこに家康が陣城として入ったので。そこで家康がやらないということも言えないですね。だから、やったかやらないかわからないから、ここにちゃんとそれが入っているじゃないかということで根拠にはしないでほしいなということです。

ここでこれを書いたときは、その可能性もあるかなということでしたので、これはもう出したものですから、どうこうじゃないです。その点だけお願いします。

【麓委員長】

よろしいでしょうか。

(3)その他

【麓委員長】

議題と報告は終わりましたので、その他、何かありますか。ないようでしたら、これで司会を事務局へお返しいたします。

【事務局(武市)】

ありがとうございました。

今後の史跡小牧山整備計画専門計画委員会につきましては、10月に、2月にも予定しております。今後、日程、詳細につきまして照会をかけさせていただきたいと思います。

また、本日のご審議を踏まえまして改めてご調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重なご審議いただきましてどうもありがとうございました。これをもちまして、令和4年度第1回史跡小牧山整備計画専門委員会を閉会させていただきます。

【麓委員長】

次回委員会は10月ということであれば、この歴史館等の改修については一体今後どうなるのか。先ほど、市の内部でもう一度検討させてくれという話でしたから、それは何らかの、次の10月まで何もなしではないということは思っていますので。

【事務局(武市)】

はい。

【事務局(中川)】

当初の年間計画では、今回は10月ということ考えておったんですが、今ご指摘いただいたことについては、先ほど部長が申しあげましたように、一旦部内でもう一度検討させていただいて、できるだけ早い時期に委員の皆様方にお示しできるように努めてまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。